

様式1(主な取組)

活動指標名	伝統芸能公演の開催件数				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	14	16	13	28	17公演	13公演	100.0%	63,730	順調	<p>県民及び来県者に伝統芸能の鑑賞機会を提供するとともに若手実演家の育成を図るため、国立劇場おきなわや各市町村と連携しかりゆし芸能公演を16回、重要無形文化財保持者等公演を1回、合計17公演実施した。(コロナ感染拡大防止による中止12公演)</p>
活動指標名					R2年度					
実績値										
活動指標名					R2年度					進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
実績値										<p>国立劇場おきなわを始め、離島等の公演実施を通じ、伝統芸能の保有者が活躍できる場を提供することで、若手実演家の育成が図られた。また、当公演の全体入場者数は1,427人を記録し、県民が伝統文化に触れる機会を提供した。</p> <p>一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により、28団体中12団体が公演の中止を余儀なくされ、実施した16公演中5公演が無観客公演で配信、DVD配布という方法をとった。</p>
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度 of 取組改善案						反映状況				
<p>・従来の公演団体によるチケット販売方法も維持しつつ、文化振興会のホームページでインターネットによるチケット販売を行う。</p>						<p>・従来の公演団体によるチケット販売方法も維持しつつ、文化振興会のホームページで、インターネットによるチケット販売を行い、あらたな客層の開拓を図った。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・チケットの販売は、各公演団体が独自に行っており、団体の規模等により販売数に差異がある。また、インターネット等によるチケット販売は行っていない。

○外部環境の変化

・イベントのチケット購入については、インターネットによる購入も普及している。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・従来の公演団体による販売は継続しつつ、複数のチケット販売方法を確保し、引き続き、あらたな客層の開拓を図る必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・従来の公演団体によるチケット販売方法も維持しつつ、文化振興会のホームページで、インターネットによるチケット販売を行う。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ウ	文化活動を支える基盤の形成	施策	① 芸術文化活動拠点の活用・充実
			施策の小項目名	—
主な取組	博物館・美術館の管理運営			
対応する主な課題	②国立劇場おきなわ、県立博物館・美術館等については、県民等が利活用しやすい環境づくりが課題となっている。また、新たな文化発信交流拠点の整備に向けて取り組む必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
芸術文化活動拠点の活用・充実を目的に、博物館・美術館の管理運営に関し、情報発信の強化等について指定管理者と連携するとともに、博物館常設展示の魅力アップや沖縄美術史の認知度向上に資する施策の展開等、県民や観光客を惹きつける博物館・美術館作りに取り組む。		451,500人	474,000人	498,000人	500,000人	500,000人
実施主体	県	学芸員の育成、沖縄文化の研究体制や企画展示の充実				
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課 【098-866-2768】					

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
県単等	直接実施	101,514	118,339	102,968	98,017	105,934	91,454	県単等	OR2年度： 常設展・コレクション展のほか企画展・特別展を計11回開催したほか、県民を対象とした学芸員講座、バックヤードツアー等を実施した。 OR3年度： 常設展・コレクション展のほか企画展・特別展を計9回開催するほか、県民を対象とした学芸員講座、バックヤードツアー等を引き続き実施する。
予算事業名							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
									OR2年度： OR3年度：

様式1(主な取組)

活動指標名	入館者数				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	435,239	508,822	504,894	577,528	156,679	500,000	31.3%	105,934	大幅遅れ	<p>収蔵資料を展示する常設展・コレクション展のほか、企画展・特別展を計13回開催した。また、学芸員講座、バックヤードツアー、文化講座等を実施した。</p>
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
										<p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p>
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			<p>沖縄の自然や歴史・芸術文化に関する収蔵資料を展示する常設展・コレクション展をはじめ、今年度は本県の自然環境や染織文化等にスポットをあてた特別展、企画展及び沖縄出身の画家や写真家の展覧会を実施した。また、各種催事の開催に取り組んだ。しかし、コロナ禍による2度の臨時休館があり、再開後は感染拡大防止策を徹底し取り組んだが、計画値の50万人には及ばず、15万7千人の入館者数となった。</p>
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国外からの利用者に向けて、解説パネル等、展示についても多言語表記を実施する。 ・ 引き続き、新型コロナウイルス感染拡大対策を実施しながら展示を実施し、終息後は利用者に向けて発信を強化する。 						<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍の収束後を見据え、国外利用者へ向けて一部の展示会については、解説パネル等、展示についての多言語表記を実施した。 ・ サーモグラフィーカメラ導入による来館者の検温実施や、館内の清掃、消毒の徹底、換気の強化、入場制限の実施など、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底した。また、学芸員解説動画を制作し配信するなど、当館ホームページやSNSによる情報発信を強化した。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・開館から13年が経過し、施設や展示設備の経年劣化が見られる。

○外部環境の変化

- ・新型コロナウイルス感染症の収束が不透明なため、国外、県外からの利用者の増加が見込めない。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・施設や展示設備の劣化度を把握し、計画的な修繕、更新を行う必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、県内客の利用増に向けての広報強化と、コロナ禍収束後の国外、県外からの集客を見据えた情報発信を行う必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・施設や展示設備の修繕等を計画的に実施し、県民等の利用しやすい環境を整える。
- ・指定管理者と連携し、県内客、特に、県内小中高、学校関係者の利用促進を図るため、周知広報に努めるとともに、コロナ禍に鑑みWEBを活用した動画配信等の情報発信に取り組む。

様式1(主な取組)

活動指標名					R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
文化発信交流拠点の整備					実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B	0	順調	グローバルな文化の受信・発信機能、プロフェッショナルな芸能の創造・継承機能、専門人材の育成機能を持つ文化発信交流拠点の整備に向けて、都市計画等に関する条件整理や調整を進め、実施計画策定業務に取り組んだ。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 都市計画等に関する条件整理や調整を進め、文化発信交流拠点の整備に向けた実施計画の策定に向けて関係団体と意見交換を行い、施設のあり方等について検討し、着実に取組を推進している。
	調査の実施	実施計画(案)策定着手	実施計画(案)の策定	関係団体との意見交換	関係団体との意見交換	関係団体との意見交換	100.0%			
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B	0	順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 都市計画等に関する条件整理や調整を進め、文化発信交流拠点の整備に向けた実施計画の策定に向けて関係団体と意見交換を行い、施設のあり方等について検討し、着実に取組を推進している。
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B	0	順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 都市計画等に関する条件整理や調整を進め、文化発信交流拠点の整備に向けた実施計画の策定に向けて関係団体と意見交換を行い、施設のあり方等について検討し、着実に取組を推進している。
活動指標名					R2年度					
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
・関係機関との意見交換、施設のあり方等について調整を進め、実施計画の策定に向けて取り組む。						・実施計画(案)に関して、関係団体等と意見交換を行い、その内容を踏まえて施設のあり方等を検討する。				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・施設整備基本計画において施設整備エリアとして決定したエリアは、都市計画決定を受けた都市緑地であることから、都市計画関連の条件整理や調整に時間を要する。
- ・当該都市緑地の整備の事業主体は浦添市である。
- ・関係団体との意見交換において、状況の変化に対応した計画の変更等が必要ではとの意見あり。

○外部環境の変化

- ・平成30年度には琉球新報ホールが整備され、令和3年11月には那覇市に文化芸術劇場が開場する予定であり、那覇市内における劇場機能が強化される。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・引き続き、浦添市をはじめとする関係機関と調整を進めるとともに、外部環境の変化も考慮しながら、実施計画の策定に向けて取り組む必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・関係機関との意見交換、施設のあり方等について調整を進め、実施計画の策定に向けて取り組む。

様式1(主な取組)

活動指標名	しまくとぅば普及の中核的機能を担う普及センターの設置・運営				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	-	設置・運営	運営	運営	運営	-	100.0%	87,783	順調	<p>平成29年度に設置した「しまくとぅば普及センター」の運営を沖縄県文化協会へ委託し、各地域における人材の養成や活用のコーディネートその他、地域の会話集の作成、しまくとぅば検定の実施、県民からの相談対応等の業務を行った。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、「しまくとぅば普及センター」の運営により、講師養成講座及びしまくとぅば検定を実施したほか、出前講座も10件行うなどしまくとぅばの普及に向けて県民がしまくとぅばを学べる環境整備が促進された。</p>
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度 of 取組改善案						反映状況				
<p>・公民館を含む市町村、市町村文化協会などの文化関係団体等と連携を図り、各実施主体も主体的にしまくとぅば普及活動に取り組んでいただくよう、働きかけを強化する。</p>						<p>・県内各地域の市町村文化協会などしまくとぅば普及団体と連携し、地域のしまくとぅばの会話集及び絵本・紙芝居などの普及ツール作成支援を継続し、地域の普及団体の取組みに応じた支援を行うことができた。</p> <p>・しまくとぅば講師養成講座については、中級講座が新型コロナウイルス感染症拡大の為に中止となったが、沖縄本島南部で上級講座を開催し、上級講座の受講を経て認定試験に合格した36名に対して認定証を発行した。</p> <p>・しまくとぅば検定については、従来の9級～7級に加えて6級を実施した。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・県内各地域のことがそれぞれ異なるため、各地域に適したきめ細かい支援が重要。
- ・各地域への支援のためには、コーディネート業務が重要となるが「しまくとうば普及センター」人員は、自身になじみのない地域においては、地域の普及団体等との信頼関係構築に時間を要する。
- ・全県的な取組につながるよう、講師養成講座及びしまくとうば検定の実施回数及び実施場所を拡充しているが、これらの実施に期間を要している。

○外部環境の変化

- ・新型コロナウイルス感染症拡大により、対面でのイベント・講義が実施困難になっている。
- ・「しまくとうば県民意識調査」によると、「しまくとうば」を話せる人の割合は昨年度より下落した。一方で、しまくとうばに親しみを感じている人やしまくとうばは必要であると思う人の割合、しまくとうばへの理解度は高い割合で推移している。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・県内各地域の取組をさらにきめ細かく支援するため、市町村文化協会など、他のしまくとうば普及関係団体と連携していく必要がある。また、モデルとなるような取組支援の実績を作る必要がある。
- ・しまくとうば講師養成講座及びしまくとうば検定について、実施回数の増、未開催地域での開催を検討するほか、実施体制も検討する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・公民館を含む市町村、市町村文化協会などの文化関係団体等と連携を図り、各実施主体も主体的にしまくとうば普及活動に取り組んでいただくよう、働きかけを強化する。

様式1(主な取組)

活動指標名	県内文化芸術活動の持続的発展に資する取組				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	16件	19件	21件	89	16件	100.0%	145,288	順調	<p>活動概要</p> <p>県内文化関係団体を対象に、文化芸術活動の持続化に向けた課題解決の取組、魅力的な創造発信を行う取組、文化芸術資源を活用して地域の諸課題の解決を図る取組を公募し、89件採択、補助金を交付した。</p> <p>採択された取組について、補助を行うとともに文化の専門人材によるハンズオン支援を行った。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>令和2年度においては、事業公募、審査の結果、採択件数は89件となり、活動指標の計画値16件を上回ったことから進捗状況は順調となった。</p> <p>また、本事業を実施することで、県内団体による文化活動の実施件数や享受者の増加、他分野との連携促進などが図られ、文化芸術活動を支える環境の形成が推進された。</p>
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 申請事業者に対し、事業内容の再検討を行ってもらう等を検討し、補助事業の期間等の見直しを行う。 採択された事業者に対して、委託を行っている文化振興会と連携しつつ、事業の進捗管理をこまめに行う。事業の周知のためのシンポジウムや相談会については、ホームページへの動画掲載等、人の集まらない方策を検討する。 						<ul style="list-style-type: none"> 申請事業者に対し、事業内容の再検討を行ってもらい、補助事業の期間・手法の見直しを図った。 採択された事業者に対して、委託を行っている文化振興会と連携して事業の進捗管理を行うとともに、本事業に係る補助金の説明内容の映像をホームページに掲載して、応募を検討している事業者への周知を図った。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・引き続き、本県の多様で豊かな文化芸術活動の持続的発展を支える環境の形成を推進する。

○外部環境の変化

・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、イベントを企画する主催者等は、感染防止対策が業種毎に策定された「業種別ガイドライン」及び「新型コロナウイルス感染症に係る沖縄県イベント等実施ガイドライン」に基づきイベントを実施する必要がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・申請された事業内容が上記の環境の変化下において実施可能性が高いか検討する必要がある。また、採択された事業においても、進捗等を確認し、事業の円滑な実施につながるよう慎重に見守る必要がある。



4 取組の改善案 (Action)

・採択された事業者に対して、「業種別ガイドライン」等に基づきイベントを実施するように委託を行っている文化振興会と連携しながら事業の進捗管理をこまめに行うとともに、事業の周知のためのシンポジウムや相談会については、県内の感染状況やイベントの性質、医療提供体制への影響などを勘案し、必要に応じて、ホームページへの動画掲載等の代替案を検討する。

様式1(主な取組)

活動指標名	(公財)沖縄県文化振興会が実施する文化事業等に対する補助				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	補助	補助	補助	補助	補助	—	100.0%	63,730	順調	<p>県民及び来県者に伝統芸能の鑑賞機会を提供するとともに若手実演家の育成を図るため、国立劇場おきなわや各市町村と連携しかりゆし芸能公演を16回、重要無形文化財保持者等公演を1回、合計17公演実施した。(コロナ感染拡大防止による中止12公演)</p>
活動指標名					R2年度					
実績値										<p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>国立劇場おきなわを始め、離島等の公演実施を通じ、伝統芸能の保有者が活躍できる場を提供することで、若手実演家の育成が図られた。また、当公演の全体入場者数は1,427人を記録し、県民が伝統文化に触れる機会を提供した。</p> <p>一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により、28団体中12団体が公演の中止を余儀なくされ、実施した16公演中5公演が無観客公演で配信、DVD配布という方法をとった。</p>
活動指標名					R2年度					
実績値										
活動指標名					R2年度					
実績値										
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<p>・従来の公演団体によるチケット販売方法も維持しつつ、文化振興会のホームページで、インターネットによるチケット販売を行う。</p>						<p>・従来の公演団体によるチケット販売方法も維持しつつ、文化振興会のホームページで、インターネットによるチケット販売を行い、あらたな客層の開拓を図った。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・チケットの販売は、各公演団体が独自に行っており、団体の規模等により販売数に差異がある。また、インターネット等によるチケット販売は行っていない。

○外部環境の変化

・イベントのチケット購入については、インターネットによる購入も普及している。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・従来の公演団体による販売は継続しつつ、複数のチケット販売方法を確保し、引き続き、あらたな客層の開拓を図る必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・従来の公演団体によるチケット販売方法も維持しつつ、文化振興会のホームページで、インターネットによるチケット販売を行う。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ウ	文化活動を支える基盤の形成	施策	② 社会全体で文化活動を支える基盤の構築
			施策の小項目名	—
主な取組	地域の文化継承・発信支援事業			
対応する主な課題	③地域の文化は、文化関係団体をはじめ、県民、NPO・ボランティア、企業など多様な主体の参画により支えられ発展していくことから、文化関係機関相互が連携し情報交換等を行いながら、文化の保全・継承・発展に対する県民の関心や意識を高め、沖縄社会全体で文化活動を支える環境を構築することが求められる。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
普段、祭事等でしか披露されていない地域の伝統芸能等を国立劇場おきなわに集め、舞台公演として県民へ披露する「特選 沖縄の伝統芸能」を開催するとともに、各地域の伝統行事・芸能等をテーマに文化講演（シンポジウム等）を開催する。		3回以上シンポジウム開催				
		各地域でのシンポジウム等の開催				
実施主体	県、文化協会	1回以上公演回数				
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課	【098-866-2768】	地域の伝統芸能を集めた公演			

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
地域文化継承・発信支援事業							当初予算額	主な財源		
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額				
県単等	委託	—	—	9,311	8,723	10,901	7,500	県単等	OR2年度： シンポジウム等の開催1件、舞台公演の開催0回（新型コロナウイルス感染症拡大により中止）、過年度の活動をまとめた書籍の発行 OR3年度： シンポジウム等の開催3件、舞台公演の開催1回 地域伝統芸能保存会への聞き取り調査（10地域程度）	
予算事業名							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源		
									OR2年度： OR3年度：	

様式1(主な取組)

活動指標名	各地域でのシンポジウム等の開催				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	4	2	1	3	25.0%	10,901	大幅遅れ	<p>県内各地域の伝統行事、伝統芸能、しまくとうば等の普及・継承についての座談会を無観客で1回実施した。また、例年は開催している「特選沖縄の伝統芸能」(普段は地域の祭事等でしか披露されていない各地域の伝統芸能を一カ所に集め、国立劇場おきなわで披露する公演)は、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>県内1地域(糸満市)でその地域の伝統行事や伝統芸能をテーマに座談会を行った。講師を招き文化講演を行うことで、地域文化の魅力について再認識できた。</p> <p>また、県内各地域で継承されている伝統芸能、伝統行事を披露する公演「特選沖縄の伝統芸能」が中止となった代替に、過去の同事業の実績と、過去の公演で取り上げた各地域芸能の現在と今後の展望をまとめた冊子「地域の伝統文化 継承の現状と課題」を作成した。</p>
活動指標名	地域の伝統芸能を集めた公演				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	1回	1回	0回	1回	0.0%			
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 引き続き各地域の特徴・違いを再発見してもらい、愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとうば」を絡めたシンポジウムや、地域の伝統芸能等を集めた公演を開催する。 地域の伝統芸能等に関するテーマを1つ取り上げた講演会を開き、複数の地域を招いて情報交換の場を提供することで、県民1人1人が自身の地域の伝統文化を見つめ直すことができるよう機運醸成を図る。 						<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染予防のため当初計画していた3地域では行えなかったが、座談会を1地域(糸満市)で無観客開催した。地元で糸満ハーレーの保存継承に携わっている方をメインにパネリストを構成し、座談会の映像と書き起こしを作成した。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・地域文化継承に関して、文化関連団体間の横の連携が取れていない。各地の取組について情報交換できるような場がない。

○外部環境の変化

・各地域の住民が、自らの地域の伝統行事・伝統芸能の重要性や価値を共有できていない。

・娯楽の多様化に伴い、自らの地域の伝統行事・伝統芸能への関心が薄れている。

・コロナ禍により、各種のイベント中止が相次いでいる。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・各地域の特色・違いを再発見してもらい、愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとうば」を絡めたシンポジウムを開催する必要がある。

・地域文化の普及継承に携わる各団体の連携を強化するため、情報交換の場を提供し、今後の地域文化の普及継承に対する機運醸成を図る必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・引き続き各地域の特色・違いを再発見し愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとうば」を絡めたシンポジウムや、地域の伝統芸能等を集めた公演を、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底の上で開催する。

・地域の伝統芸能等に関するテーマを1つ取り上げた講演会を開き、複数の地域を招いて情報交換の場を提供することで、県民1人1人が自身の地域の伝統文化を見つめ直すよう機運醸成を図る。